

今月稼働する山梨県立中央病院の手術室（OR）では、前立腺がんの確定診断に用いられる「生検」が行われる。プライ

やまなし
医療最前線
新3OR始動
県立中央病院から

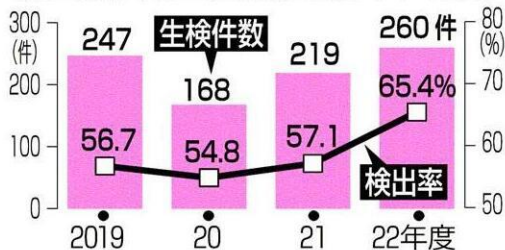
〈286〉



鈴木中
泌尿器科部長

バシーに配慮した空間で、緊急時にも迅速に対応できる。最新システムの導入により、検査の正確性向上も期待されている。

山梨県立中央病院
前立腺がん生検件数と検出率の推移



前立腺がん確定診断迅速化 生検プライバシー配慮

生涯に男性の9人に1人がなるとされる前立腺がん。泌尿器科部長の鈴木中医師によると、

「PSA検査」という血液検査でがんの疑いがあると、精密検査としてMRI、肛門に指を挿

入して調べる直腸診を実施する。その後、前立腺に直接針を刺して組織を採取する生検を行い、確定診断となる。

「PSA検査」という血液検査室に隣接する処置室で行っている。「カーテンなどで仕切っているが、外見えないようにしているが、外部の会話が聞こえる状態」と鈴木医師。よりプ

ライバシーに配慮する必要性を感じていたという。同院が行った前立腺がんの生検は受診・検診控えなどの影響で一時的減少したものの、2022年度は260件とコロナ禍前まで回復。命に関わる悪性のがんもあれば、リスクの低いがんもある。リスクの低いがんは、積極的な治療をせずに継続した検査で様子を見る「監視療法」も選択肢の一つになる。

前立腺がんの生検に関して同院は原則として1泊の入院を必要としているが、患者の要望を受けて昨年度から日帰り生検の体制を拡充した。導入から1年以上が経過し、入院して行う生検と比較して安全性や有用性に違いは確認されていない。

一方、日帰り生検は外来診察室に隣接する処置室で行っている。カーテンなどで仕切っているが、外見えないようにしているが、外部の会話が聞こえる状態」と鈴木医師。よりプ

ライバシーに配慮する必要性を感じていたという。同院が行った前立腺がんの生検は受診・検診控えなどの影響で一時的減少したものの、2022年度は260件とコロナ禍前まで回復。命に関わる悪性のがんもあれば、リスクの低いがんもある。リスクの低いがんは、積極的な治療をせずに継続した検査で様子を見る「監視療法」も選択肢の一つになる。

3月には生検に用いる機器を刷新する予定という。針を刺す際に前立腺の位置を確認する超音波エコー画像に、事前に撮影

したMRI画像を重ね合わせて表示できるようにする。MRI画像は、がんと疑われる部分が映し出されるため、狙った位置に確実に針を刺すことが可能になる。

同院が行った前立腺がんの生検は受診・検診控えなどの影響で一時的減少したものの、2022年度は260件とコロナ禍前まで回復。命に関わる悪性のがんもあれば、リスクの低いがんもある。リスクの低いがんは、積極的な治療をせずに継続した検査で様子を見る「監視療法」も選択肢の一つになる。

一方、日帰り生検は外来診察

室に隣接する処置室で行っている。カーテンなどで仕切っているが、外見えないようにしているが、外部の会話が聞こえる状態」と鈴木医師。よりプ

ライバシーに配慮する必要性を感じていたという。同院が行った前立腺がんの生検は受診・検診控えなどの影響で一時的減少したものの、2022年度は260件とコロナ禍前まで回復。命に関わる悪性のがんもあれば、リスクの低いがんもある。リスクの低いがんは、積極的な治療をせずに継続した検査で様子を見る「監視療法」も選択肢の一つになる。